

(14)

氏名(生年月日)	フジノノベ ユキ之 藤野信之
本籍	
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第659号
学位授与の日付	昭和59年5月18日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	輸入肝炎の疫学および臨床的研究
論文審査委員	(主査)教授 小幡 裕 (副査)教授 野本 照子, 教授 内田 幸男

論文内容の要旨

目的

近年ウイルス肝炎は国際感染症の一つとして注目されてきている。わが国においても海外への旅行者、駐在者が増加するにともない、熱帯、亜熱帯の肝炎ウイルス蔓延地域において肝炎ウイルスの感染をうける者が多発しており、また、外国からの来日者が多くなるにつれて肝炎ウイルスが持ち込まれる場合もある。この様な輸入肝炎の疫学的、臨床の実態を知る目的で当施設に入院した症例について検討を加えたので報告する。

対象と方法

対象とした症例は外国での滞在期間、肝炎ウイルスの潜伏期および発症時期などから現地での感染とみなされたものであり、昭和49年11月より昭和57年8月までに経験した58例である。

肝炎ウイルスの血清ウイルス学的診断法として、A型肝炎ウイルス(HAV)についてはIgMantiHAをHAVAB-M(RIA法)を用い、B型肝炎ウイルス(HBV)については、HBs抗原(HBsAg)はR-PHA法、HBs抗体(antiHBs)はPHA法、HBc抗体(antiHBc)はCORAB(RIA法)で測定した。またHBVのsubtypeはHI法によった。

成績

1. 疫学的事項

(1) ウイルス型はA型40例71.4%、B型11例19.6%およびNANB型5例8.9%であった。

(2) 56例中男51、女5例で、平均年齢は男についてみるとA型29.5、B型35.9、NANB型32.8歳であっ

た。年齢分布は10歳から60歳におよぶが20歳代と30歳代が全体の90%を占めていた。

(3) 感染時の滞在国は大陸別にみるとアジア32例(57%)、アフリカ19例(34%)、アメリカ4例、ヨーロッパ1例であった。

(4) 発生状況は現地で発症したものの30例、帰国後発症したものの26例であり、短期旅行者は20例、長期駐在者は36例であった。滞在期間は最短3日間から最長850日におよんだ。

(5) HBVのsubtypeはadr4例、adw6例であり多くは罹患国に優位に分布しているtypeであった。なお、ytypeは認められなかった。

(6) 日本に入国後発症した外国人2例を経験した。1例はチリ人でA型、他の1例はインド人でNANB型であった。

2. 臨床的事項

(1) 初発症状として黄疸が3型とも高率(80%以上)に認められ、発熱はA型90%、B型55%、NANB型0%であった。

(2) 入院時の血液生化学検査所見では、B型およびNANBは全例8~10週目で正常化するが、A型では12週をこえるものが9例22%認められた。

(3) 肝生検を施行し得た44例の組織所見は急性肝炎36例、慢性非活動性肝炎3例、慢性活動性肝炎3例、肝内胆汁うっ滞2例であった。

結語

海外で罹患するウイルス肝炎はA型がもっとも多く、ついでB型、NANB型の順であり、また若年成人

者に多い。これは滞在国の肝炎ウイルス蔓延度、感染様式、および渡航者の抗体保有状況などに関連している。輸入肝炎例にも重症になる場合があり、またA型

では国内の流行源になる可能性がある。輸入肝炎の疫学的臨床の実態を把握し、適切な予防対策を樹立することが必要と思われる。

論文審査の要旨

近年わが国において、国際感染症の一つであるウイルス肝炎の海外罹患例が増加し、注目されてきている。しかし未だそれに関する詳細な報告はみられていない。

本論文は過去8年間に経験した輸入肝炎58例について疫学および臨床の実態をはじめて明らかにしたものであり、学術上価値あるものと認める。

主論文公表誌

輸入肝炎の疫学および臨床的研究

肝臓 第25巻 第2号

159～167頁（昭和59年2月25日発行）

副論文公表誌

1) 肝炎ウイルスと肝癌

最新医学 35 (8) 1641～1646 (1980)

2) 肝癌

癌と化学療法 8 (3) 373～378 (1981)

3) 肝疾患の前癌状態

外科治療 45 (1) 53～62 (1981)

4) 肝癌発生母地としての慢性肝疾患

癌の臨床 27 (8) 970～976 (1981)

5) HBs抗原汚染事故症例に対する抗HBウイルス

ヒト免疫グロブリン(HBIG)の肝炎予防効果に関する検討

東女医大誌 53 (1) 26～36 (1983)

6) 輸入肝炎

臨床成人病 11 (8) 1177～1182 (1981)